

## 会 議 議 事 録

1 会議名	令和6年度第2回長岡市公立大学法人評価委員会
2 開催日時	令和6年7月11日（木）午前10時30分から正午まで
3 開催場所	長岡造形大学 大学院棟3階 第2会議室
4 出席者名	<p>（委員）三上委員長          水澤委員          草間委員          並木委員          槇委員</p> <p>（説明のために出席した関係者）</p> <p>公立大学法人長岡造形大学 佐々木理事長          公立大学法人長岡造形大学 平山学長          公立大学法人長岡造形大学 安達副理事長          公立大学法人長岡造形大学 久島事務局長          公立大学法人長岡造形大学 佐藤財務課長</p> <p>（事務局）長岡市地方創生推進部 斉藤副参事          長岡市政策企画課 五十嵐課長          長岡市政策企画課 早川課長補佐          長岡市政策企画課 相川係長          長岡市政策企画課 浅野主査</p>
5 欠席者名	—
6 議事	<p>（1）令和5年度業務実績報告について</p> <p>（2）第2期中期目標期間業務実績見込報告について</p>
7 審議結果の概要	議事（1）（2）ともに、大学と委員の間で質疑応答を行い、今後の評価書づくりに反映させていくこととなった。
8 審議の内容	
事務局・政策企画課課長補佐	<p>本日は、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>これより、令和6年度第2回長岡市公立大学法人評価委員会を開催</p>

事務局・地方創生 推進部副参事	<p>いたします。はじめに地方創生推進副参事より御挨拶申し上げます。</p> <p>(副参事挨拶)</p>
事務局・政策企画 課課長補佐	<p>本日の評価委員会は、委員5名のうち4名が出席されておまして、1名遅れて御出席いただく予定となっております。長岡市公立大学法人評価委員会条例第5条第3項の規定を満たしていることを御報告いたします。なお、このたびの評価委員会は、長岡造形大学の佐々木理事長、平山学長、安達副理事長、久島事務局長、ほか事務局職員から御出席いただいております。</p> <p>それでは、佐々木理事長から一言御挨拶をお願いします。</p>
理事長	<p>(佐々木理事長挨拶)</p>
事務局・政策企画 課課長補佐	<p>佐々木理事長、ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事の進行を三上委員長にお願いしたいと思います。三上委員長、よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>それでは、進行を務めさせていただきます。</p> <p>議事を進める前に、今回の評価委員会の議事録署名人を決めたいと思います。水澤委員と草間委員のお二人にお願いしたいと思いますと考えておりますが、よろしいでしょうか。なお、草間委員からは事前に御了承をいただいております。</p> <p>(水澤委員 了解)</p> <p>それでは議事に入りたいと思います。今回の議事は2件です。</p> <p>1件目は、令和5年度業務実績報告についてです。大学から自己評価の説明をしてもらい、それについて各委員から御質問と御意見を伺います。財務状況については参考情報として御説明いただければと思います。</p> <p>2件目は、第2期中期目標期間業務実績見込報告書について、同じく大学より説明してもらい、それについて各委員から御質問と御意見を伺います。</p> <p>では、1件目の令和5年度業務実績報告についてです。</p>

<p>学長 財務課長</p>	<p>それでは、大学側から業務実績報告について、説明をお願いします。</p> <p>(資料1により説明)</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>委員の皆さんから御質問などありましたら、お願いします。</p>
<p>委員長</p>	<p>1年生が学部全体での共通の学びとして造形の基礎を学ぶという説明がありましたが、どのような内容を学ぶのでしょうか。</p>
<p>学長</p>	<p>以前は基礎造形実習として、学部全体で月曜日から金曜日まで午前2コマで実施し、学科を越えた交流が生まれていました。内容は、色を塗る、作る「色彩」、自分の頭でイメージしたものを自分の手を通して描く「描写」、自分の頭でイメージしたものを形として表現する「立体」の3つの基礎を学ぶものでした。</p> <p>令和5年度からは「テクノロジー×(クロス)デザイン」領域が加わったことから、これまでの3つの基礎に「コンピューター」の学びも加えた4つの基礎を学部で共通する基礎として、基礎造形演習という形で学んでいます。</p>
<p>委員</p>	<p>「テクノロジー×デザイン」領域を新設されるのは、デジタル技術がデザインにおいて不可欠という認識からだと思います。</p> <p>デザイン学科においては、プロダクトデザイン領域や視覚デザイン領域の学生もコンピューターの技術を学ぶのでしょうか。</p>
<p>学長</p>	<p>プロダクトでも視覚でもコンピューターは不可欠ですので、いずれの領域もコンピューター技術を学びます。</p> <p>その後、1年生の後期から2年生の前期で自分の軸足となる専門領域を決めて専門性を学び、2年生後期からはスタジオにて社会に出たときを想定した実践的な学びを行います。</p> <p>プロダクト領域と視覚的デザイン領域の交わる部分がテクノロジー×デザイン領域という考えから、本領域を立ち上げまして、プロダクトを専門とする教員、視覚を専門とする教員に加え、新たな教員を迎えて教育を実施しています。</p>
<p>委員</p>	<p>まず、高い志願倍率が本当に素晴らしいと思います。これは、本学</p>

学長	<p>が広く認知されいるとともに、優秀な学生が集まる、また安定的に大学経営ができるという意味でも大変重要な指標であると思います。今後も本学の魅力を発信し、さらに志願者が増え、たくさんの学生が長岡市に来てくれることを期待します。</p> <p>また、地域との連携に関して、地域協創演習で複数のプロジェクトを実施していますが、具体的に学生がどのように地域との関わりを持って活動したのか、次回の評価委員会等でお聞かせいただければと思います。</p> <p>長岡市外出身者の本学卒業生で、卒業後、長岡市に残って地域で活躍されている方のお話を聞く機会がありました。本学で学んでよかったことの一つに人と人とのつながりを挙げられており、そうした思いから卒業後も長岡市での活動を選ばれたとお聞きしました。地域に愛されて、地域に根差して活動されている姿が本学の目指している教育を体現されているように思い、とても良い実例であると感じました。</p> <p>卒業後に長岡市に残ることが全てではないと思いますが、長岡市に残って活躍し、県外、全国、海外にアピールしている素晴らしい実例だと思います。</p> <p>このような方が他にもたくさんいらっしゃると思うので、ぜひPRしていただきながら、さらに魅力を発信していただきたいと思います。</p> <p>本学は8割が県外出身学生で滋賀県以外の全国の都道府県から学生が集まっています。また8割が女子学生です。</p> <p>学生に本学の志望理由を聞くと、地域課題に力を入れていることを挙げる学生が非常に多いです。本学は長岡市が設置団体であり、地域課題にも取り組むという考え方もありますので、それを理由に全国から学生が集まります。</p> <p>また、学生が地域課題に取り組むときの「地域」というのは、出身地も含まれているんですね。本学で地域課題に取り組みながら、自分の出身地のことも考えて、出身地に戻ったらこういうことをしたいなどと考えながら取り組んでいるのではないかと思います。</p> <p>長岡市に残る学生もいますが、他の地域から本学に来て、地域課題への取組を学んで、また出身地の地域に戻って地域課題の解決に取り組む、地域に還元するという学生も多数おられます。</p> <p>5年ほど前から、入学試験の面接時に学生がSDGsについて必ず話ようになりました。既存ストックや古い建物について学びたいなどということが確実に増えています。これから地球環境も含めて考え、取り組む意識のある学生が全国から集まってくれていると認識していま</p>
----	--

<p>委員</p>	<p>す。</p> <p>昨年度から新カリキュラムをスタートされましたが、令和2年度にこれに関する基本方針を策定して準備を進め、併せて第4アトリエ棟の建設も進められています。この先見性が本当に素晴らしいと思います。このように先端的に一步先を進む大学であるからこそ、全国的に定員割れの大学もある中で、学生が集まり、高い志願倍率を維持できている、評価できると思います。</p> <p>また、学生の授業内容満足度の指標について、年間平均 4.53 とあり、目標を上回る非常に良い評価となっています。</p> <p>卒業・修了研究展も拝見しましたが、学生が自身の出身地での地域貢献をテーマにした発表がありましたし、地域課題に力を入れて取り組まれていると思います。今後も長岡市と連携をして、さらに良い方向に進むことを期待します。</p> <p>テクノロジーは日進月歩だと思しますので、教員も先端の方をお迎えしてさらにレベルを上げていていただいで、今後ますます本学が発展することを期待します。</p>
<p>学長</p>	<p>第4アトリエ棟については、学生が望むコースを越えた新しい学びを提供したいということで進めてきました。また、それに合ったカリキュラム作らなければならないということを教員が自覚してくれたことで新カリキュラムをスタートすることになりました。学生は社会を反映していると思しますので、社会がどのようなものを望んでいるのか考えながら、教育カリキュラムを作っていきたいと思っております。</p>
<p>理事長</p>	<p>志願倍率や新カリキュラムなどの変革を評価いただき、ありがとうございます。</p> <p>しかし、新設した本学の「テクノロジー×デザイン」について可視化することやアピールすること、また教員の確保や大学運営のDX化など、やるべきことはたくさんあると思っています。</p> <p>より良い学びの場に、より時代に貢献できる学生を輩出し続けるような大学にできるよう努めていきたいと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>テクノロジー、デジタル技術の習熟はもちろん、その大前提となる自ら手を動かして物を作るといった基礎を同時に重視されていることに私も同感です。学生のときから、自分で手足を動かして五感を使って作る、時には失敗するという経験が必要ではないかと思っています。</p>

委員長	<p>「テクノロジー×デザイン」で特化して最先端を目指されていると思いますので、ぜひ基礎となる部分を今後も大切にしていきたいと思います。</p> <p>それでは次に、議事ではありませんが、参考まで、令和5年度決算の概要について大学側から説明をお願いします。</p>
財務課長	(説明)
委員長	<p>いまほどの説明について、御質問がありましたら、お願いします。</p> <p>(質問・意見なし)</p>
委員長	<p>ほかに質問がなければ、議事2件目、第2期中期目標期間業務実績見込報告に移ります。</p> <p>大学から説明をお願いします。</p>
財務課長	(資料2を基に説明)
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>委員の皆様から御質問等がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>これまで、評価委員会の意見に対しても一生懸命に取り組んでいただき、高い志願倍率や学生たちを取り巻く大学の環境の変化への適切な対応など成果としてしっかり出ていると感じました。</p> <p>まだやるべきこと、やった方がよいことはたくさんあると思いますが、当初と比べたらすごく成果が出ていると感じ、評価委員として非常に嬉しく思います。</p>
委員長	<p>皆様よろしいでしょうか。</p> <p>事務局は、今の議論をもとに評価書案の作成を進めてください。</p> <p>本日予定していた議事は以上となります。</p> <p>進行に御協力いただき、ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。</p>
事務局・政策企画課長	三上委員長ありがとうございました。

	<p>それでは、これにて、「令和6年度第2回長岡市公立大学法人評価委員会」を終了いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>上記議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名する。</p> <p>委 員</p> <p>委 員</p>	
<p>9 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 次第・出席者名簿</li><li>○ 資料1 令和5年度業務実績報告書</li><li>○ 資料2 第2期中期目標期間業務実績見込報告書</li></ul>	